

スヴァーリとの独占インタビュー（2）

—— “第4帝国” ——

【訳者解説】これは HJ Springer による 13 部からなるインタビューの、第 8 部である。他と比べて短い、イルミナティの正体をわかり易く描いている。内部で教育され、かつ批判力をもつ者でなければ、このように分析はできないだろう。

Q: あなたのイルミナティについての説明を聞いていると、まるで“第3帝国”が復活したように聞こえます。確かに、彼らの振舞いや目標には、ナチスの痕跡がうかがえるようです。ドイツが [イルミナティでは] 指導的立場にあるようですが、やはりここでも、EU を統合することによって、ヨーロッパ軍、即応部隊、それに世界法廷の設立が見えてきます。これは究極的にどのような展開になるのでしょうか？

A: 実は New World Order を指す別名があります。その同義語の一つがまさに“第4帝国”です。本当の話です。多くのイルミニストが心の中に、第4帝国プログラムをもっています。そう、ドイツ、と EU が世界経済を支配するでしょう。米経済は少しの間、低迷し、それからヨーロッパの助けを借りて回復するでしょう。

Q: 「黙示録」は、この集団が滅びると言い、どんな風に滅びるかの、暗鬱な様子をかなり詳しく描いています。これはイルミナティのアジェンダに、どんな影響を与えるのでしょうか？ 彼らはきっと、昔の予言と、彼ら自身の予告された滅亡について、知っていることでしょう。彼らは何とかして、人類を騙すことによって、自分たちに都合がよいように、予言を利用する試みをしているのですか？

A: 基本的に言って、彼らはそれを否定しています。彼らは、歴史は変えられる、そしてヨハネの予言的啓示は、未来の一つの解釈にすぎないと考えています。彼らは黙示録を意識していますが、あまり真剣に受け取ってはいません。

トップにいる者たちのある者は、比喩的に言って、すでに権力についていることを忘れないでください。彼らは金融の全構造を支配し、巨大な富をもち、世界中にいくつもマンションをもち、欲しいものは何でも、しかも、何百万人もの他者をコントロールする喜びを手にしています。彼らは、自分たちの知力が鋭く、“新しい秩序”においては自分たちが“グッ

ド・ガイ”になると信じています。彼らはルシファー教徒であり、したがって聖書を信ずることは主張の方向を誤ることなのです。

全体的な意図や目的について、もしあなたが彼らに訊ねるならば、彼らはきっと笑って、こう言うでしょう、「だって新しい秩序はすでに来ているではないか。まだ公然と言われていないだけだよ。」

彼らは数百年にわたって権力を握ってきましたが、空から落ちてきた雷に当たって死ぬこともありませんでした。彼らは、この地上で、神の意志を代表する者たちだとさえ、考えているかもしれません。(彼らもまた“神”に仕えていること、ただ、キリスト教徒と同じ聖書の神ではない、ということをお忘れなくください。)

彼らはこう聞き返すでしょう、「もし神が、我々が、人々にそれを使わせるのを望んでいないとしたら、どうして人々に、このような潜在力を開発させたのかね？ 神が我々に与えた知力と才能を十分に利用しないで、人々をよりよい種族に成熟させるのは、犯罪的な能力の浪費ではないのか？」彼らはこんな調子で議論するでしょう。

彼らは基本的に、自分たちは**良い者**で、たとえその手段が、その時には、耐えがたかったとしても、**よい事**を行っているのだと信じているのです。彼らは、弱くて適さない者たちを排除し、最高の人種を発達させようとしているのです。これが馬鹿げているのはわかっていますが、彼らは中心レベルで、本当に、本心からこれを信じているのです。黙示録の裁判に従わねばならないとしたら、彼らは自分自身を悪と見なければなりません。だからそう考えないのです。

これで少しは説明になったかと思います。彼らは自分をそういうふうに思い描き、自分は白馬に乗る者であって、黒馬に乗る者ではないと考えているのです。虚偽の力はそれほど強いのです。私自身はキリスト教徒です。このカルトで教えられたこういう古い信仰を、私は捨てています。